

H19年9月1日(土)
第19回関西感染予防ネットワーク例会

抗菌薬関連性下痢症 患者ケアの感染対策ポイント

済生会兵庫県病院
感染管理認定看護師
小川麻由美



最近、下痢の患者が多い
ような・・・?!

日本産経新聞(夕刊)
2007年3月9日(金)

強毒型腸炎菌 国内で初確認
関東・東海、拡大懸念も

【東京7日電】強毒型腸炎菌が国内で初めて確認された。関東と東海地方を中心に拡大する恐れがある。厚生労働省は、感染拡大防止のため、患者の発生状況を厳密に監視するよう医療機関に呼び掛けている。

この菌は、北米やヨーロッパで確認されている。強い毒性を持つため、感染すると下痢や嘔吐、発熱などを引き起こす。また、重症化すると命を失うこともある。国内では、これまで確認されていない。今回の確認は、関東地方の東京都で発生した。患者は、関東地方から東海地方へ移動したとみられる。厚生労働省は、感染拡大防止のため、患者の発生状況を厳密に監視するよう医療機関に呼び掛けている。

この菌は、北米やヨーロッパで確認されている。強い毒性を持つため、感染すると下痢や嘔吐、発熱などを引き起こす。また、重症化すると命を失うこともある。国内では、これまで確認されていない。今回の確認は、関東地方の東京都で発生した。患者は、関東地方から東海地方へ移動したとみられる。厚生労働省は、感染拡大防止のため、患者の発生状況を厳密に監視するよう医療機関に呼び掛けている。

感染対策のポイント ～接触感染予防策～

《患者ケアの注意事項》

- 流水下での手洗いの励行
- 患者の配置;個室隔離または集団隔離
- 排泄物の処理方法について
- 防護具の適正な使用
- 環境整備
- 臨時勉強会の開催



みんなで行えることが大切！
ひとりでも出来ていなかったら、
感染拡大の危機が・・・！？

血液

汗を除く、
体液・分泌
物・排泄物

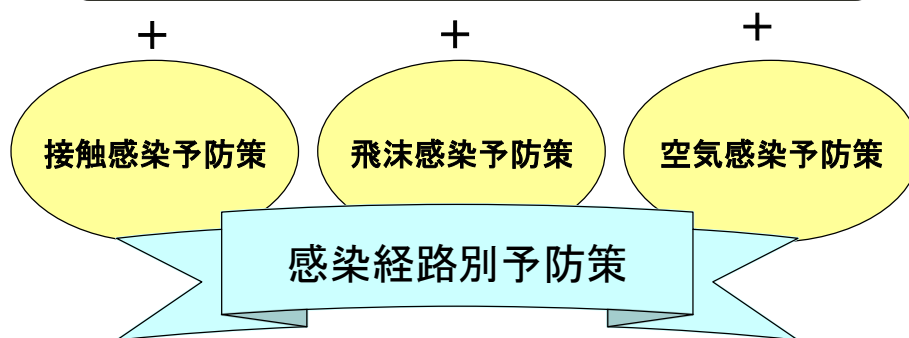
スタンダードプリコーション
(標準予防策)

粘膜

損傷した
皮膚

《病院における感染対策》

スタンダードプリコーション (標準予防策)



スタンダードプリコーションの項目

- ・ 適切な手指衛生
- ・ 適切な防護用具の着用
(手袋・マスク・ガウン・目の保護具)
- ・ 鋭利な器具の取り扱い
(針や鋭利器具の正しい使用法と廃棄の仕方、最新の安全機能などの導入)
- ・ 周囲環境対策
(器材・リネンの取り扱い、環境清掃)
- ・ 血液体液曝露防止対策
- ・ 適切な患者の配置



接触感染予防策

- 患者との直接接触や汚染器具・環境を介した間接触によって伝播される感染
- 接触感染予防策の基本は、病原体伝播の原因となる接触機会の低減と経路の遮断

①患者配置


- 患者は原則個室に配置する。
または同室管理(コホーティング)
- * 患者移送;病室外への移動は必要最小限にとどめる。

②患者の処置及びケア

- 聴診器や血圧計などは可能な限り患者専用とする。

③防護具の着用

- ・ 汚染物の有無に関わらず、患者ケア時には手袋を使用する。汚染物に触れた時には手袋を交換する。
- ・ 着衣が患者、周辺環境の表面、病室内の物品に接触すると予測される場合や、失禁、下痢の処理時や汚物の処理を行う場合は、病室に入る際にプラスチックディスポエプロンを着用する。
- ・ 退室する際は部屋の中でディスポエプロンを脱ぐ。

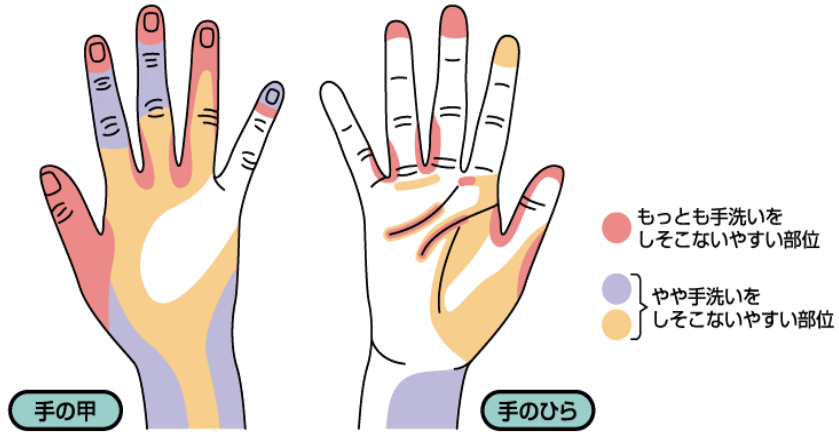


1. 手指衛生

- ・ クロストリジウムディフィシルとは芽胞を持つ菌
- ・ 栄養型は空気環境下では死滅するが、芽胞は長期に渡り生存できる。
- ほとんどの消毒薬に芽胞には効果がない
 - ⇒手指消毒薬(アルコール)では効果が期待できない
 - ⇒流水下での石鹼を用いた手洗いが重要

一処置一手洗い

手洗いをしそこないやすい部位



出典
Taylor, L. J : An evaluation of handwashing technique, 1. *Nursing Times* 12 : 54-55, 1978

流水・液体石けんを用いる方法



2. 排泄物の処理

- 排泄物で床が汚染されたときは、ペーパータオルで汚染部分を広げないように外側から内側に向かって拭き、拭き取った布はすぐにビニール袋などに入れて感染性廃棄物容器に廃棄する。
- 汚物を拭き取った後は0.1%次亜塩素酸ナトリウムで床を拭き取る。
- 乾燥すると、環境中に飛散して感染拡大する可能性があるため、乾燥しないうちに速やかに処理する。

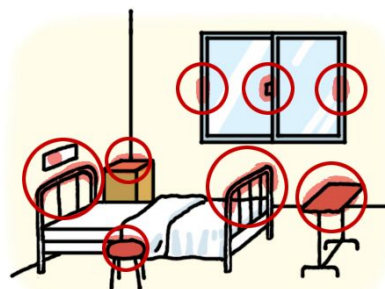
2. 排泄物の処理

- オムツ交換
1回ごと手袋を交換し、交換したオムツは直接床に置かず、袋に入れて処分する。
- ポータブルトイレ・便器などの処理
ポータブルトイレや便器は、流水と専用ブラシで洗浄し、0.1%次亜塩素酸ナトリウムで約30分浸漬消毒、または染み込ませた紙タオルなどで清拭する。
(使用後の専用ブラシ類なども浸漬消毒する)
- 患者には、排泄後出来る限り手洗いを促す。
- 他の入院患者にも手洗いを促す。

3. 環境整備

＝日常的な部屋の掃除は、こまめに行う＝

- 日常的に手が触れる環境表面を中心に0.1%次亜塩素酸ナトリウムで清拭消毒する。
- 清拭後は水拭きする。



4. 器具の消毒

- 洗浄した後、0.1%次亜塩素酸ナトリウムに約30分間浸漬する。
- 浸漬出来ない物は、次亜塩素酸ナトリウムで清拭する。
- 次亜塩素酸ナトリウムに浸漬もしくは清拭した後は、水拭きする。

(材質により色落ちや錆が発生するなどの欠点あり)



《まとめ》

- 下痢症状のある患者は、防護具を使用しての処理が重要。
- 下痢症状のある患者に対しては、日頃から接触感染予防策をとっていく。
- 汚物の処理時には次亜塩素酸ナトリウムを使用。

＝クロストリジウムディフィシルは芽胞菌＝

- アルコールやイソジンなどの消毒液は無効。
- 汚物の処理後やケアの後は、擦式手指消毒薬ではなく、流水下での石鹼を用いた手洗いが大切。
- 医療従事者に対する研修、教育
 - * 全国での感染症発生などの流行状況を、最大限に生かす
 - ⇒ 先手必勝で行動できるように！

